

6. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (東海)	◎	百貨店（販売促進担当）	・今後しばらくは富裕層の購買による単価上昇が続くと予測している。
	◎	スーパー（経営者）	・20年に1度行われる神社の伝統行事に伴う民俗行事が始まり、地域の活性化に期待している。
	○	商店街（職員）	・当地域の中心街では、6月に高層ビルがオープンする。
	○	商店街（代表者）	・エアコン値上げ前の買換えの動きが出ているため、販売は好調に推移する。
	○	一般小売店〔結納品〕 （経営者）	・今のままでは困る。景気が良くなることを期待する。
	○	百貨店（経理担当）	・中東情勢は落ち着いても、原油価格が以前の水準まで戻り切らず、ガソリンや生活用品の物価高から個人消費は力強さを欠き、景気は緩やかな上昇にとどまる。
	○	家電量販店（店員）	・客が商品を選んで決定するまでのスピードが速いケースが多い。
	○	家電量販店（営業担当）	・世界情勢が分からないが、夏物商材、エアコン、冷蔵庫の販売に大きな期待をしている。
	○	家電量販店（フランチャイズ経営者）	・エアコンが売れている。エアコンと蛍光灯の規制変更についてマスコミ等で取り上げられることが多くなり、安いうちに買換えたい客の来店が増えている。この傾向は来年3月まで続くとみられる。
	○	乗用車販売店（経営者）	・中東情勢の影響により消費者は大型消費財への支出にちゅうちょしているとみる。また、今後はナフサ不足の影響により車両生産の混乱が予想されるため、販売にも大きな影響が出ると懸念される。
	○	その他専門店〔貴金属〕 （経営者）	・円安や物価高騰、原油価格変動などの影響次第で、消費者が敏感に反応するとみるが、夏頃には一段落すると予測する。
	○	旅行代理店（経営者）	・中東情勢の影響によっては、景気が停滞する可能性もある。
	○	タクシー運転手	・全体的に、雰囲気は明るい。
	○	通信会社（サービス担当）	・アナログ回線終了に伴い、代替サービスへの切替えをする際にインターネットを始める人が増えつつあるため、少し景気も良くなる。
	○	美容室（経営者）	・6月～7月は暑くなってくるため、外出は大変であるが、髪が伸びてきた客の来店があることを期待する。
	□	商店街（代表者）	・商店街への来客数は安定しており変わらない。
	□	一般小売店〔土産〕（経営者）	・米国大統領の対外政策が変わらない限り景気回復は望めない。
	□	一般小売店〔果物〕（店員）	・3か月ほどでは変わらない。
	□	百貨店（売場主任）	・今月は15日に年金が振り込まれて来店する客が多かった。15日以降の数日間、午前中はカジュアルシューズやウォーキングシューズを見に来る年配の客が多かったが、やはり値段が高いため、安い他店へ流れてしまった。セールを実施しても、1万円の靴は売れるが、2万円近くになると皆ちゅうちょしてしまって売行きが上がらず、全体の単価が低いため、今月の売上は厳しい。
	□	百貨店（営業担当）	・物価高で、1つ買うにも悩む傾向が続いている。
□	百貨店（営業担当）	・値上げが相次ぎ来客数は若干減っているが、単価の上昇でカバーできているため、すぐに大きな動きがあるとは考えづらい。	
□	百貨店（販売担当）	・購買意欲の高い客による購入は継続するが、全体としては慎重な動きもみられ、景気が良くなるとは言い難い。	
□	百貨店（販売担当）	・シール、フィギュアなど趣味性の高い商品が好調。季節商材は暑くないがUV関連商品の出だしが早く雑貨全体として好調である。	
□	スーパー（店長）	・買上点数が改善傾向にある。	
□	スーパー（店員）	・変わらない。	
□	スーパー（店員）	・いろいろな状況で商品の値上げが予定されているが、米の値段が落ちてきている。	

<input type="checkbox"/>	スーパー（店員）	・中東情勢の影響が懸念されるなか、慢性的に続く人手不足、人材不足の改善は、今後更に厳しくなる。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	・年間トレンドではピークに入っていく時期だが、大きな改善は期待できず、現状維持からの変化はない。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（店長）	・今年の前半より来客数が前年比で2～5%下回って推移している。来客数が上向かない限り、景気の向上は見込めない。ただし、値上げ等の影響により客単価は上がっているため、売上等は前年並みを維持できるとみる。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（販売企画担当）	・物価高で、衣料品に回す金が減っているとみる。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（売場担当）	・SNSの検証動画で当社の完全ノーアイロンのワイシャツが1番良いという結果が出ていて、それを見て買いに来たという人もいる。これからはスーツではなく、単品でノーアイロンのワイシャツやパンツを買う人が増えてくる。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（経営者）	・良くなることを期待したいが、今の状況は急には変わらないとみられる。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（経営者）	・良くなる要素がない。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	・具体的なネガティブ要素はなく、勢いはないが悪くない。このまま推移するとみる。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	・1台1台大切に販売することにより利益を確保できているが、販売できる車種が限られており、半数以上の車が販売停止になっているため、販売台数は年々減少している。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（営業担当）	・5月は例年売上の落ちる時期ではあるが、今月が良くないため、今以上には落ち込まないであろう。ただし、上がる気配も今のところみられない。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（販売担当）	・自動車の登録に関わる環境性能割が4月から廃止になったが、客の反応は少なく、余り効果は期待できない。今後もどうなるか分からない。現在、低金利のフェアを行っており、どこまで客に還元されるかによるところである。
<input type="checkbox"/>	高級レストラン（経営企画）	・中東情勢から消耗品を中心に値上げ要請が届いている。また、納品制限も今後出てくる見込みであり、運営そのものが不透明である。
<input type="checkbox"/>	一般レストラン（従業員）	・物価高騰が続くので先行きが見えない。
<input type="checkbox"/>	その他飲食〔ワイン輸入〕（経営企画担当）	・取引先から円安による値上げの連絡が増えている。当社も値上げを検討しており、業務用の需要は冷え込む。
<input type="checkbox"/>	観光型ホテル（経営者）	・2～3か月先の予約数は5%ほど前年に満たない状況であるが、今月もほぼ同様であるため変わらない。中東情勢の不安定化や物価高により顧客心理が冷え込み、金を使うことをためらう人が多い。
<input type="checkbox"/>	観光型ホテル（支配人）	・予約状況は前年を上回り、来客数の増加を見込んでいるが、原材料費、人件費及び修繕費（設備補修費）等のコストが上昇し、収支全体でみると予断を許さない状況である。
<input type="checkbox"/>	都市型ホテル（従業員）	・予約数から判断した。
<input type="checkbox"/>	都市型ホテル（経営者）	・ゴールデンウィークやそれ以降の企業イベント開催日の集客に期待しているが、引き続き、同業他施設との競合やガソリン代高騰の影響が懸念される。
<input type="checkbox"/>	旅行代理店（経営者）	・石油不足と物価高のダブルパンチで、当面この状況が続く。
<input type="checkbox"/>	旅行代理店（経営者）	・7月1日以降のパスポート申請手数料の値下げについて正式発表があったが、5月1日から燃油料が非常に値上がりし、先行きがどうなるか分からないのに旅券の申請だけを行うとは考えられない。
<input type="checkbox"/>	旅行代理店（経営者）	・中東情勢の影響なのか、様々な原材料が不足し始めている様子が見受けられる。スーパーの広告が減り、レストランのメニュー料金が頻繁に改訂されたり、様々な工夫を重ねている割に来客数は回復していない。競合先の廃業や減少により持ちこたえているが、街中でも閉店が目立ち始めている。

□	タクシー（従業員）	・前年下期から、乗車料金の値上げが認められたこともあり、売上は伸びているが、来客数はほぼ前年並みとなっている。エネルギーを含む物価高の影響により、法人客、個人客共にタクシー利用を控える傾向になる。また、売上は伸びているが、燃料費が異常なほど値上がりしており、利益面での減少が見込まれることも懸念材料となっている。
□	テーマパーク職員（総務担当）	・取引がなかった納品業者から価格を抑えた商品の売り込みがあった。どこもこれ以上経費負担はしたくないため買い控えして在庫過多になっていると考えている。在庫の有無は企業規模で大きく分かれているようで、大手は出る量が多いため不足気味、小規模店は在庫を抱え売れ残った商品を現金化したく薄利で販売していると推測している。
□	観光名所（案内係）	・当地域では大きな自然災害や地震発生がこのところ起きていない。近々大きな地震が来るという漠然とした不安感を皆持っている。
□	ゴルフ場（経営者）	・夏頃に同業他社が近隣にでき、顧客流出が予想される。
□	美顔美容室（経営者）	・今月と同様に、新規客の来店がキープ品の販売につながるとみる。
□	住宅販売会社（従業員）	・どこまで影響が出るのかまだ予測できない。
▲	一般小売店〔生花〕（経営者）	・中東情勢の影響が収束しない限り、このような状態はこれからも続く。何もかもが値上げになり、余分な出費は控えるようになる。
▲	一般小売店〔贈答品〕（経営者）	・3か月先は更に石油関係の資材が高騰し、様々な物の値上げが懸念される。企業は物価高に合わせて賃上げを実施したいところではあるが、情勢をみて一旦控え、投資も少し控えるものとみる。原油価格の高騰に伴う輸入コストの上昇及び企業の投資抑制の動きから、3か月先の景気はやや悪くなると判断する。
▲	一般小売店〔生活用品〕（販売担当）	・物価の上昇のなか、高額商品は買い控え、安い物に流れている。明るい材料がない。
▲	百貨店（総務担当）	・百貨店の販売や仕入れに関し、原油やナフサ不足の影響は今のところ感じないところではあるが、電力やガスが6月頃に値上げする報道もあり、消費者の財布のひもは固くなる方向と想定している。当地域は製造業が多く、中東情勢に商圏が左右されると見込んでいる。中東情勢と比例することなく、株高が続いているが、富裕層の購買意欲が一段と高まっているような状況も見受けられず、5～6月は苦戦するものと想定している。
▲	百貨店（営業担当）	・中東情勢の影響により資材不足、値上げが既に始まっている。
▲	スーパー（店長）	・中東情勢の影響による資材や石油等の値上げに伴い、節約志向が高まり、買上点数が減少すると懸念する。
▲	スーパー（店長）	・中東情勢の影響から、買い控えが今後も考えられる。
▲	スーパー（店員）	・これから夏に向かって30度を超える日が増えるごとく午後に来客が減る。さらに、売上を押し上げる旬の商品がないため売上は悪くなるとみられる。
▲	スーパー（店員）	・担当カテゴリーの値上げが続き苦戦しているなか、ナフサ不足絡みによる包材関連の値上げも噂されており苦戦が見込まれる。
▲	スーパー（支店長）	・物価上昇に加え、いまだ先の見えない中東情勢により我が国の産業が大きく揺るがされているとみている。
▲	スーパー（販売担当）	・様々な意味で不確定なことが多く、消費意欲を抑制される状況は変わらないとみる。ナフサの状況次第では多くの商品に影響が出る。販売方法改正や消費税の方向性により小売業ではレジの改編等も求められ、消費の拡大につながるかは予見しにくい状況が続く。
▲	コンビニ（店長）	・中東の海峡封鎖による影響を懸念する声が聞こえてくるようになった。物流の停滞や値上げが予測されるため、景況感は徐々に悪くなる。
▲	コンビニ（企画担当）	・物価の上昇による影響が徐々に出てきている印象であり、値上げの波は今後も継続すると想定されるため、更に悪くなるとみられる。

▲	コンビニ（エリア担当）	・中東情勢が不安定な状態が長期化することによって、石油に起因する様々な物の価格が上がり、消費の冷え込みを招く。
▲	コンビニ（店長）	・物価高に中東情勢が加わり、商品の値上げが更に加速する。包材や販売促進物の値上げにより、商品の価格は更に上がる見込みである。売れ筋のおにぎりが単価200円を越すと低価格の菓子パンに客が流れ、売上が下がるおそれがある。
▲	コンビニ（店長）	・石油生成商品等の原材料確保に対する不安もあり、商品の値上げは続き、消費は一層冷え込む。著名人監修のお茶や専用マシンの導入など話題性のある商品の投入に支えられ、何とか「やや悪くなる」にとどまるとみている。
▲	コンビニ（商品企画担当）	・中東情勢の兼ね合いで、一部商品の供給が不透明な状態が続くことから、今後の情勢によっては商品の更なる値上げや供給不足で影響が出てくる。
▲	コンビニ（本部管理担当）	・記録的な株高や継続的な物の価格上昇といった表面的な経済指標の動きとは裏腹に、一般消費者の日常生活における実質的な景況感では決して上向きではないと肌で感じており、家計の圧迫による消費マインドの冷え込みが今後更に顕著に表れることを懸念している。
▲	衣料品専門店（店長）	・中東情勢の影響により、石油由来の原料を使用する塗装関係や建設業、中小工場関係の客から業績悪化への懸念の話をよく聞く。主に手袋など店で仕入れる商品の入荷が遅れており、今後は入荷数の減少や価格上昇が見込まれるため、売上への悪い影響は避けられない。
▲	衣料品専門店（売場担当）	・中東情勢が物価高騰に影響を及ぼすといわれている。
▲	乗用車販売店（営業担当）	・中東情勢による影響で、いろいろな材料や部品が今後入荷しなくなる予想があり、生産や販売がストップしてしまうのではないかと懸念している。
▲	乗用車販売店（経営者）	・長引く物価高が家計をますます圧迫する。中東情勢が長引けば影響が大きくなる。
▲	乗用車販売店（従業員）	・中東情勢等、今後どうなるか不透明である。これらの影響によっては、景気が更に悪化する可能性がある。
▲	乗用車販売店（従業員）	・今後は生活関連の物価高騰が続く見込みで、更に原油製品の品薄感が広がると春に賃上げがあっても、生活に関連した支出を絞らざるを得なくなってしまう。客の商品に対するお買い得感や、必要性に対する選別が厳しくなり、客の財布のひもはまだ固い状況にある。
▲	乗用車販売店（従業員）	・中東情勢の影響で、石油由来の製品が入ってこなくなったり、これまでに比べ倍以上の値上げを通告されている。特に自動車に必要なエンジンオイルやブレーキオイルが欠品になっていて、顧客対応に非常に苦慮している。
▲	住関連専門店（営業担当）	・中東情勢の影響が長引いているため、商品が入ってこない。また、品切れなどで受注見込みが悪くなり、工事が遅れている。一般顧客からの引き合いは多く出ているが、このような問題が長引くとみる。
▲	その他小売 [ショッピングセンター]（経理担当）	・低迷状況であることに加え、ウクライナや中東情勢の不安定さの影響等から、先行きは極めて不透明である。
▲	一般レストラン（経営者）	・現在の世界情勢を考えると、我が国の経済が将来的に上向きになるようには思えない。
▲	一般レストラン（経営者）	・物価高が原因であり、値上げができないことが痛手である。
▲	その他飲食 [仕出し]（経営者）	・時間差でじわじわと影響が拡大してくる。
▲	都市型ホテル（総支配人）	・季節要因及び原油価格の高騰で、仕入コストが軒並み上昇しているが、価格転嫁は困難となっている。加えて、飛行機の減便が外国人旅行者にどのような影響をもたらすかも注視が必要である。また、当社はA重油を2社から調達しているが、そのうち1社から納品を拒否されており今後の調達を非常に危惧している。
▲	都市型ホテル（営業担当）	・中東情勢が不安定で株高の状態でも先が見通せない。また、自粛傾向が徐々に強くなることを懸念する。
▲	旅行代理店（経営者）	・中東情勢次第では、今後物価高の影響を受ける。

▲	旅行代理店（営業担当）	・上期の団体旅行の受注案件は6月出発をピークに推移しており、7月～8月にかけては減少する見込みである。背景としては猛暑が懸念されることと、バス代高騰の影響を受け、夏休み期間における子連れのバス利用行事や部活動送迎についても全体的に需要が縮小する傾向にある。
▲	旅行代理店（営業担当）	・5月～6月の燃油サーチャージが約2倍、更に中東の海峡封鎖による原油未達の影響が出て値上げは今の2.5倍になるといわれている。さらに、来年度からは国内線でも燃油サーチャージの導入が検討しており、ますます旅行代金は上がり続けるため、不安要素は計り知れない。
▲	タクシー運転手	・本来は気候も良くなって客の動きも良くなる時期だが、中東情勢の問題で余計な経済悪化が発生しているため、身近な客の動きが非常に悪い。このような問題がなければもっと上向いているはずが、全く逆の方に進んでいる。中東情勢問題が終結しなければ、今後もっと目に見えて悪くなっていく。
▲	通信会社（営業担当）	・世界情勢により値上げの影響は続き、物流も悪くなる。
▲	テーマパーク（職員）	・中東情勢の影響が収束しない限り難しい。
▲	パチンコ店（経営者）	・繁忙期を迎える月だが、いろいろな物が値上がりとなり、娯楽に使用できる金額が圧迫される。
▲	パチンコ店（従業員）	・来客数は今月と同程度で推移する見込みである。
▲	理美容室（経営者）	・客との話では、物価ばかり上がり賃金は上がらないため、生活は大変ということである。
▲	美容室（経営者）	・まだこの先値上がりが続くと見込まれるため、当面は景気が悪くなる。
▲	美容室（経営者）	・中東情勢の影響が大きい。
▲	その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・素材メーカーが値上げをすると、中東情勢の影響が収まったとしても、元の原価に戻ることはないと聞く。福祉用具貸与事業は、介護保険で上限価格が設定されているため、利益を削るか、貸与製品の延命を今まで以上に努力しなければならない。補修部材のコストが上がり、また、人件費や業務委託費用も上がると身を削ることばかりである。
▲	設計事務所（職員）	・ますます石油が足りなくなることから、物価が上がってくる。それに対し、景気は相変わらずだと見込まれる。
▲	住宅販売会社（経営者）	・中東情勢の影響により大手企業でもナフサ等の不足が深刻化する。また、建築資材等の不足や高騰により体力のない中小零細企業の倒産が増加する。
▲	住宅販売会社（従業員）	・これから6月7月と値上げの情報が入ってきている。値上げ前に購入というのも通常はあるがユニットバスの納期遅れ、塗装に制限があることなど先送りした方がいい内容が多く、買い控えの風潮が進むと考える。
▲	その他住宅〔住宅管理〕（経営者）	・住宅に関する補助金が出ても、ますます建材価格が高騰し着工に至らない。施主も慎重になり、不安がっている。この先、更に影響が広がらないか心配である。
▲	その他住宅〔展示場〕（従業員）	・中東情勢の問題などで、住宅を建てること自体が難しくなっていることから、買い控えが広がる。
▲	その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕（営業）	・夏は閑散期で全く期待できない。
×	商店街（代表者）	・原油の輸入が不安定であるため、どうなるか不透明ではあるが、米国とイスラエルが現状のままであれば非常に厳しい状況になる。
×	コンビニ（店長）	・4月は周期的に雨も降り気温差も大きく、業績は振るわなかった。天候のせいなのか、物価高のせいなのか分からないが、今後も景気の上昇は期待できない。
×	衣料品専門店（経営者）	・生活必需品の値上げラッシュが落ち着くまでは、消費者の購買意欲は低いままの状態が続く。
×	乗用車販売店（営業担当）	・現在の情勢における物流の停止が、これから顕著になってくる。部品価格の高騰、単価の高騰にもつながるため、客の買い控えなども出てくる。
×	通信会社（企画担当）	・物価高に加え、石油系原材料の物不足、海外情勢の先行きに不透明感など更なる悪化が見込まれる。端末、光ファイバー等の資材不足により、営業を抑制せざるを得ない状況である。
×	設計事務所（経営者）	・良くなる気配は全くない。
×	住宅販売会社（従業員）	・資材及び人件費の高騰で、理解できない客が発注を我慢するようになってきている。

	×	その他住宅〔室内装飾業〕（従業員）	・元請もほとんど受注していない。見積依頼が来ても7月からの価格上昇がどの程度になるのか予想できないため、見積り提出ができない。
企業動向関連	◎	—	—
(東海)	○	電気機械器具製造業（経営者）	・部品の原価が上がっており苦しいが、客先業界全体の設備投資が期待できるため、良い傾向であるとみる。
	○	金融業（企画担当）	・中小企業においては、大手企業ほどの賃上げは難しい。発注先による経費の見直しが浸透すれば賃上げにも向きやすいが、浸透するにはもう少し時間を要するとみる。
	□	食料品製造業（社員）	・中東情勢が依然不透明であり燃料価格上昇が懸念されるが、景気対策等で短期的に影響は最小限に抑えられる。
	□	パルプ・紙・紙加工品製造業（顧問）	・中東情勢の影響により、原油価格が高騰している。そのため、原材料価格が上昇している。また、円安も進んでおり、2～3か月先も現在と同様の景気が続くともみる。
	□	化学工業（総務秘書）	・特段景気が下がるようなトピックが見当たらない。中東情勢の緊迫が懸念材料であることは間違いなく、ドル円為替が160円に到達する場面があり、世界で有事と捉えられている。中東情勢の大きな動きがあれば、経済の見通しの予測はしやすくなるとみている。
	□	一般機械器具製造業（経営管理担当）	・受注量、販売量見込みから判断した。
	□	一般機械器具製造業（営業担当）	・相変わらずA I需要に支えられた半導体関連の設備投資の勢いが衰えない。引き合いも多いが、いきなり受注になる案件も多く、勢いがある。
	□	電気機械器具製造業（営業担当）	・特に良くなる要素もないが、悪くなる見込みもない。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	・生産量について、直近1年は過去と同様に推移している。また、材料等の値上げはしているが販売量に変動がないため、需給バランスが取れた状態が続いている。
	□	輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・人材が定着しないのはほかに選択肢がたくさんあることによるもので、景気は上がっているとみる。
	□	輸送業（従業員）	・原油価格が不透明であるため、先行きは見通せない。個人消費も伸びていない。
	□	輸送業（従業員）	・原材料価格の高騰で収益が減ると予想している企業がみられる。
	□	通信業（法人営業担当）	・景気の変動に影響を及ぼすような政策や新しい技術もなく、労働人口といわれる世代一人一人のやる気は、アジア圏の外国人と比較すると著しく低い。第二次ベビーブーム世代が現役引退する5年後くらいまでは現実を維持できるが、それ以降は悪くなるとみる。
	□	金融業（従業員）	・夏休みやお盆による人の移動があり、様々な需要は高まるとみる。一方で、ゴールデンウィークは遠出をしない人が大半であったことから、日常生活に余裕がないことも考えられる。
	□	不動産業（経営者）	・今後も晴れの日が多くなりそうであり、外出や遠出をする人は増加する見込みである。今後も売上は増加し、前年を上回る状況が続く。
	□	広告代理店（制作担当）	・夏に向けてのイベント等は、近年猛暑が予想されているため、時期をずらして実施する企画も見受けられる。
	□	会計事務所（職員）	・前回のオイルショックと違い、今回は企業活動に対する影響が報道されている。トイレットペーパー等の日用品の買占めもみられない。ガソリン価格も政府の対策で大きく上がっていない。皆が用心して消費活動をしている。
	□	その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	・円安がずっと続き、我が国のかじ取りが非常に難しくなっている。是非とも我が国に仕事を回復させて、20年前のように日本を活性化してほしい。法制度の変更により、3分の1は我が国に仕事を残すべきである。
	▲	食料品製造業（営業担当）	・値上げが販売数に大きく影響している。先の見通しも悪い。
	▲	食料品製造業（経営企画担当）	・包装材料の値上げ、供給不足がいよいよ深刻化しており、早急な対策を求められている。
	▲	窯業・土石製品製造業（社員）	・原油不足から来るナフサ入手難の影響から、こん包用資材の供給制限が始まっており、製品を作ってもこん包できず、出荷できないという状況が起こるといった懸念が現実味を帯びてきている。

	▲	金属製品製造業（従業員）	・中東情勢は別にしても、本年度の見通しは夏頃の仕事が少ないというのが専らの声であったので、中東情勢を含めれば更に厳しい見通しでしかない。
	▲	建設業（役員）	・石油が入ってこないため、建築資材に影響が出始めている。建築ができない、建築費が高騰するとの情報が交錯して、消費者の土地購入意欲にブレーキが掛かる。自社は土地の仲介物件を主に扱っているため、売れなければ売上に影響が出る。
	▲	輸送業（経営者）	・燃料代の上昇に加え、物流で使用されるこん包材などの資材につき軒並み値上げ通達が来ている。
	▲	輸送業（従業員）	・原油供給不足に関して先が見通せない状況がこのまま続けば、景気が悪化するのとは避けられない。
	▲	輸送業（エリア担当）	・原油問題から様々な分野で需給バランスが崩れ受注に影響を及ぼす。
	▲	輸送業（エリア担当）	・原油調達不足により、運ぶ荷物が作れなくなる、もしくは手術ができなくなるために出荷量が減るかもしれないとの不安がある。
	▲	金融業（従業員）	・物価が高くなっているが、給料はさほど上がっておらず、景気は良い方向に向かっていない。また、石油関係の問題もあり、今後の見通しとして皆節約をしているイメージが強いため、景気としては余り良いムードにはなっていない。
	▲	会計事務所（職員）	・石油不足のため、あらゆる物の値上げや潤滑油、塗装用シンナーなどの供給不足が発生し、自社工場の稼働停止のみならず、受注先における大元の組立ラインを停止することも想定に入れなければならない状態となっている。
	×	化学工業（営業担当）	・原料メーカーよりプラスチック原料の供給制限があった。4月上旬から一部製品については生産停止、供給制限を行っている。5月以降も同様な状況が続く見込みであり、6月以降は不透明である。汎用製品への影響も出る可能性がある。
	×	鉄鋼業（経営者）	・需要の停滞に加え変動する石油や石油製品の調達難が暗雲を発生させている。
	×	金属製品製造業（経営者）	・原油の輸入減少もあり、材料の値上がり、今後の需要減少を見込んで秋頃までの注文を受けるケースもある。先行きを見定める動きもあり、量的に拡大が見込めない状況である。
	×	輸送用機械器具製造業（管理担当）	・中東情勢の影響が続いていて原油価格高騰が続く。いろいろな物が不足し電気代にも降り掛かってくる。
	×	新聞販売店〔広告〕（店主）	・新年度向けの販売が落ち着き、輸入商品の値上げが続く。
雇用 関連	◎	—	—
	○	*	*
(東海)	□	人材派遣業（営業担当）	・中東の海峡問題の状況次第で、良くも悪くも変動する可能性を秘めており、予測が困難である。
	□	人材派遣会社（営業担当）	・中小企業を中心に人手不足の状況に変化はないが、人件費などのコスト増加により採用計画を見直す企業が増加している。
	□	人材派遣会社（営業担当）	・ポジティブなニュースが見当たらない。
	□	アウトソーシング企業（エリア担当）	・塗型に使用するメタノールの入手状況が悪く、国内自動車メーカー関連のメイン発注企業においては夏頃まで必要分は保有している様子である。今後入手が困難になれば、自動車製造ラインを止めることになるが、是が非でも回避しなければならない。
	□	職業安定所（職員）	・原材料費や燃料費、運送費や人件費などの各経費の高騰、並びに金利の上昇傾向によって、価格転嫁を進めることが困難な中小企業では事業活動への大きな負担が長期間継続しており、かなり厳しい状況となっている。一方で受注が堅調な産業もあるが、物価高騰などに伴う消費動向の停滞、世界情勢を踏まえた経済動向への懸念等により、新たな求人提出を控え、引き続き様子見をしている産業も少なくない。一部求人提出を控えている産業が見受けられるものの、現時点で大きな生産調整や雇用調整などの情報は入っておらず、世界情勢次第ではあるが、直近での景気動向の大きな変化は生じないと判断している。
	□	職業安定所（職員）	・中東情勢が想定以上に停滞しており、物価を含めて、人材関連にも影響が出始める。

□	職業安定所（職員）	・中東情勢の影響が長引けば下振れリスクもあるが、現状では判断がつかず現状維持とした。
□	職業安定所（職員）	・インタンク向けの軽油について、現在と同様に供給不足が続く見込みであるが、手に入らない事態までにはならないと予想しており、事業自体は引き続き問題なく運営できる。
□	民間職業紹介機関（窓口担当）	・大きく動きのあった年度初めの時期から一旦、落ち着く想定がある。ただ例年よりも業界により偏りはあるが人手不足の状況は更に深刻な状況もあるため、大きな落ち込みはない予測である。
□	民間職業紹介機関（営業担当）	・上期のキャリア採用オープンにより求人数が増加する時期でもあるが、業界・個社単位で世界情勢も見据えながらキャリア採用の取組に濃淡が出ると推察する。
□	学校〔大学〕（就職担当）	・新卒採用の動向について、物価高騰等の懸念はあるが、今後2～3か月先で大きく変化することは想定できない。
▲	人材派遣会社（社員）	・リニューアルオープンを控えているため期待はあるが、良くなる要素が余りない。
▲	人材派遣会社（営業担当）	・自動車部品メーカーにて、2026年度は電動化や運転支援、自動運転の領域でコスト面は厳しくみられており、2～3か月後には9月末で業務終了の話が増え始める可能性がある。
▲	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・4月に入り、各社商品の値上げをしておりガソリンを始め、油など軒並み単価が上がって家計を圧迫している。消費を減らす、余分なものは買わないのは変わらない。
×	人材派遣会社（社員）	・中東情勢が好転する見込みがない。
×	職業安定所（職員）	・国際情勢が不安定であり、取引先から値上げや一部取扱停止などの情報が入ってきている。中東情勢の影響が現れ始める。
×	職業安定所（職員）	・製造業で塗装に必要なシンナー等の原料供給が滞り、5月後半には塗装ができず納品できない状況にあるという声もあるなど中東情勢の影響が広がりつつある。